

うか、対応できる人材を募集していただきたいと思います。

また、官民対話については、富山市の事例がすごく大事で、前回の２回目のにいがたPPPの研究フォーラムにおいて、富山市行政経営管理課の官民連携公共施設マネジメント係長の廣木さんというのが、富山市で実際に行われた官民対話を紹介しながら、その必要性や具体的な実施方法を解説いただいておりますので、ぜひそちらを、また参考にいただきたいと思います。

最後になりますが、やっぱりこのPPPというのは、やはり５０年後、１００年後も安心な上下水道等、そういった公共サービス支援するということで、目標は実現可能性であって、そして、その目標可能性を実現する、担保とする手段が、PPPだったりそういった事業の選択肢であると考えております。そしてそれを、なおかつ地域の実情に合わせて、それぞれの地域の正解を見つけ出すことがまた重要であります。

また、先ほど自治体と民間事業所の関係もありましたが、お互いのウィン・ウィンの関係を構築することも大事であります。そして、何より大事なのは人でありまして、リーダーは誰か、またそれを支える人は誰か、そして最後は、市長の英断にかかってくるところもあります。

また今後、多様な課題に対応していくためにも、持続可能な糸魚川へ向けた、あらゆる取組を加速することを要望いたしまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（保坂 悟君）

以上で、加藤議員の質問が終わりました。

ここで、暫時休憩いたします。

再開を午後３時といたします。

〈午後２時５２分 休憩〉

〈午後３時００分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、中村 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。〔１４番 中村 実君登壇〕

○１４番（中村 実君）

最後になりましたが、よろしくお願いいたします。

創生クラブの中村です。

１、糸魚川市の自殺対策について、１回目の質問を行います。

第２次糸魚川市自殺対策計画が令和６年度から１０年度までを計画期間として新たに始まり、令和元年から令和５年までの自殺死亡率、１０万人に対して１８．５人を令和６年から令和１０年までの数値目標を１３．０人と定め、新たな取組を進めていますが、自殺は個人の問題ではなく、糸魚川市民全体の問題として取り組んでいく必要があります。自殺者を１人でも減らすために、どの

ような取組に力を入れているのか伺います。

- (1) 糸魚川市における過去10年の自殺者数及び年代別、職業別の数字と自殺の実態をどのように受け止めているのか伺います。
- (2) 令和6年度から第2次自殺対策計画が始まりましたが、第1次計画と大きく変わった点は何か伺います。
- (3) 気づき、つながり、見守りのための体制と人材育成はどのように行っているのか伺います。
- (4) 市民への啓発・周知はどのように行っているのか伺います。

2、各種災害へ向けた対応策について、伺います。

糸魚川市内では雪崩・地滑り・高波・噴火・河川の氾濫など、多くの災害が発生してきました。また、昨年の1月には能登半島地震で、市内では震度5強という地震に見舞われ、液状化やブロックの崩壊、屋根瓦の落下など、市民にとって恐ろしい体験をしました。このように過去にいろいろな災害を経験し、各種災害に対しどのような対策を行ってきたのか伺います。

- (1) 新潟焼山火山災害から50年が過ぎ、新たな対策は何か伺います。
- (2) 7・11水害から30年が過ぎ、新たな対策は何か伺います。
- (3) 能登半島地震から1年が過ぎ、新たな対策は何か伺います。
- (4) 今後の地球温暖化で発生する災害は何が考えられるか伺います。
- (5) 今冬の大雪の影響は何があるのか、今後の対策を伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

中村議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、過去10年間で、40歳未満で16人、40歳から59歳で22人、60歳以上で56人、計94人の方が自殺で亡くнаられております。

なお、職業別の数字については把握できておりません。

自殺の実態は、依然として高齢者層に多い状況が続いております。自殺に至る要因は様々ですが、一人一人が抱える問題に対し早期に気づき、対策を講じることが重要と考えております。

2点目につきましては、大きく変更した点はありませんが、必要な方に適切な対策を講じることができるよう、連携の強化を図る内容といたしております。

3点目につきましては、より多くの人から支援者となっていただけるよう、あらゆる機会を通じて心の健康づくりをテーマに、啓発を行っております。

4点目につきましては、3月と9月の自殺対策強化月間を中心に、イベントを通じた自殺対策の意識づけや広報誌等による啓発を行っております。

2番目の1点目から3点目につきましては、自分の身は自分で守る避難行動など、日頃の備えの周知や過去の災害の教訓を後世につなぐ取組を引き続き行っております。

4点目につきましては、線状降水帯の発生による記録的豪雨などにより、河川の氾濫や大規模な土砂災害の危険性が増すものと認識いたしております。

5 点目につきましては、今後、融雪期において、雪崩や雪解けによる土砂災害が発生するおそれがあることから、引き続き警戒巡視や注意喚起に努めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14 番（中村 実君）

ありがとうございました。2 回目の質問に入りますが、まずは、自殺対策について伺います。

第2 次糸魚川市自殺対策計画を見ると、平成30 年が17 人と異常に多く、その後は9 人、6 人、9 人、6 人、9 人というふうになっておりますが、6 人と9 人の3 人の差なんですよ。この差ってのは、毎年毎年変わってるんですけど、その辺の差をどのように捉えているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

この増減につきましては、高齢者層の自殺者数の増減でございます。中高年、若年層の数は、年間1 人ないし2 人と横ばいで推移しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14 番（中村 実君）

この第2 次の計画を見ると、自殺の現状があるんですよ。過去10 年があるんですけど、この17 人、30 年の17 人というのが最高で、今んとこ6 人てのが一番少ない数字、過去10 年ですよ。一番少ない数字になってるんです。だから、担当として非常に頑張ってるなというのはね、私は見えるんですけどね。

ただ、やっぱり答弁されたように高齢者数、高齢者が3 人というので上下してるというところなので、いかに高齢者の自殺を減らしていくかというのが大事なところではないのかなというふうに思っております。

糸魚川市でも働き盛りの30 代以上の男性が自殺に走るといふふうに言われています。今、少ないというふうに話がありましたね。これは、職場内のトラブルだとか、鬱病、またはギャンブルに手を出すとか、様々な悩みが重なっていった自殺に走っていく。計画を見ると、計画のこの中に、元気がないとか体調不良だとか、ふだん酒の量がちょっと増えてきたとか、ふだんとはちょっと違った動きが見えてくるんですよ。ただ周りにいる人は、なかなかそれを見抜くというか分かるという知識を持ってない。それが周りにいる人が、そういう知識を持っていれば、家族に話したり、会社に話して何とかこれを阻止できるのではないかなというふうに思ってるんですけど、こういう大きい会社ならば、産業医だとかスタッフがいると思うんですよ。でも、なかなか小さいところ

ではそういうのいないんですけど、糸魚川市にそういう産業医とかいる会社というのは何社ぐらいあるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

事業所の数は把握しておりません。従業員50人以上いらっしゃる事業所においては、産業医の選任というのが義務づけられておりますし、50人未満の小規模事業所については、糸魚川市医師会が運営する地域産業保健センターというところに相談を行うことができますので、全ての事業所について相談できる体制が整っておるということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

なかなか市内見ても、そんなに大きい会社ないですよ。そうすると、そういう小さな企業とか個人に、いかに周りにいるどういう人に目配りしなきゃいけないかというところを周知していく必要があると思うんですけど、そのようなことはやられているんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

糸魚川保健所と連携いたしまして、そういった協議を進めておりまして、今後、周知方法ですとか内容についても、また引き続き検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

なかなか、この人ちょっと体調悪いな、もしかしたらというところを見れる人って少ないと思うんですよ。それも年に1回ぐらいの講習では、なかなかそういう知識も得られないと思うんですよ。だから今後、年に数回の講習をある程度どこかで人間を集めてやっていく必要があると思うんですけど、そのような、やるというような、そういう考えはありませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

自殺対策の問題だけではなくて、アルコールの問題ですとか、ひきこもり、高齢者の鬱病など、自殺対策と関連した研修というものを継続して、繰り返し実施していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

ぜひお願いします。できればいろんなところで、3地域ですよ、糸魚川、能生、青海、3地域で定期的にそういう会を開いていただければありがたいなというふうに思います。

先ほど答弁にもありましたが、80歳以上の自殺者が非常に多いという、6人の、上の3人が高齢者ということみたいなんですけど。男性の平均寿命は81歳で、女性は87歳というふうに言われてるんですが、例えばおじいちゃんが早く亡くなって、おばあちゃんが独り暮らしになって、それが寂しくて死を考えているとか、それか、おばあちゃん、おじいちゃんが亡くなって、おばあちゃんが家族の人とうまく折り合いがつかなくて、そういうふうになるんじゃないかなというふうな、いろんなパターンが私考えられると思うんですけど、担当課では、その3人、上のほうの女性の自殺者のそれは、どのように捉えているんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

様々な要因が考えられまして、原因の特定は非常に困難だというふうに思っております。

しかし、対策としてはどのような介護サービスを利用されていた方なのか、それによってどのような支援が必要であったのかというような振り返りを行って、支援者間で共有をしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

おばあちゃんが1人になってね、やはり閉じ籠もるんじゃなくて、地域とのコミュニケーションを取れるような、そんな対策も必要だと思いますし、今冬あたりは大雪ということで、なかなか外に出れないし、春も遅いので畑にも行けないという状況が続いてるんですよ。これはやっぱり担当でも今の、これだろうという原因を捕まえながら、そういうおじいちゃんでもおばあちゃんでもお年寄りにそういう目配り・気配りが必要だというふうに思うんですが、ただ、担当課だけでね、この糸魚川市を全部回って、そういう話もしていけないと思うんですよ。各この地域に自殺や鬱病に対して、ある程度の知識を持った人がもしいたとしたら、そういう人たちとタイアップしながら進めていく必要があると思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

高齢者への見守りですとか、生活支援を行っている地域の方、また、地域包括支援センターの職員、そういった方が、自殺の視点で、自殺対策の視点で接していただいておりますので、その辺の連携体制はできているというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

連携が取れてるということは、その各地域にそういう知識を持った、例えば資格が要るのかどうか知りませんが、そういう講習を受けて、知識を持った人たちが、ある程度いるってことでいいんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

議員のおっしゃるとおりでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

ぜひそういう人たちとタイアップして、そういう人たちも年取っていくとね、なかなか対応できなくなるんで、後につながるような人たちも教育していく必要があると思いますんで、よろしく願いいたします。

自殺予防に関する普及啓発活動として、ゲートキーパーの養成を目的とした民生委員への出前講座や鬱病をテーマとした老人クラブへの健康講話を実施しているということですが、これは、年に何回、大体どこでやっていたらっしゃるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

その辺の研修等につきましては、上越地域のいのちとこころの支援センターというところの職員の方によるゲートキーパー養成研修、そういったものでありましたり、私ども保健師、精神保健を学んだ保健師が、地域の出前講座等で実施しておりまして、今年度につきましては、1月末時点で13回の開催でございます。会場は、それぞれの地域に出向いてということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

思ってたより多いんでちょっと喜んでおりますが、13回が多いのか少ないのかちょっと分かりませんがね。これは、回数を重ねるに越したことはないんですけど、今後も頑張っていたきたいと思います。

それから、計画書の最後を見ると、自殺は追い込まれた末の死です。自殺を考えている人は何らかのサインを発しています。自殺は防ぐことができますというふうに書かれております。これは、大変大事なことだなというふうに思っていますが、こういう情報が市民や民間の人たちにどのように伝わっているのかと。多分あんまり伝わってないように思うんですよね。一番大事なことだと思いますんで、上越市でも自殺者の4割が、40歳から70歳の働き盛りの男性だということで、市民や企業の担当者40人が、講師を呼んだ講演会に参加し、自殺予防について学んだということが新聞に書かれておりました。

糸魚川市でも自殺予防専門家を呼んで勉強をしているのか、また、してなければ今後またする必要があると思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

第2次自殺対策計画につきましては、昨年の5月に概要版を全戸配布させていただいております。この概要版を用いて、出前講座等を実施しておりますし、議員のおっしゃるとおり、その辺の勉強会というのも非常に重要なことだというふうに思っておりますので、糸魚川保健所とタイアップして取り組んでまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

ぜひそういう専門家を呼んで勉強することも、職員もそうですし、地域の人たちもそうですし、ぜひやっていただければ、1人でも2人でも減らすことができるんじゃないかなというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

先日、課長にもちょっと話した内容なんですけど、私もテレビで見たんですが、会社を辞めたいけど言い出せなく、鬱になりかけた人が、退職代行モームリという会社に連絡をしたそうです。

この会社は、365日24時間体制で電話やLINEで相談を受け付けていて、自分の口で会社を辞めるとは言えない働き盛りの人が、夜中まで眠れず悩み、夜中の2時、3時に連絡をしてくる人が非常に多いらしいです。この退職代行モームリという会社では、本人に代わり、その会社に電話やLINEで会社と連絡を取り、本人の気持ちを伝え、退職に導くということです。この会社

を立ち上げた社長というのは、まだ若い社長なんですよ。だから発想が非常にいいなというふうに思っております。

糸魚川市の第2次糸魚川市自殺対策計画も、1次と、今の話だと大きくは変わっていないということと言われたんですけど、やはりこういったちょっとした発想ですよ。今までちょっとした発想の変わったようなことを、自殺を減らすためにやっていく必要があると思うんですけど、これをやれということじゃないんですよ。今までの流れでやっていくんじゃなくて、何かちょっと新しい発想を取り入れればどうですかということなんですけど、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

自身ができないことを代行していただけるということで、そういう効果的なシステムだったんだろうなというふうに感じております。行政ではそのようなシステムの構築というのは非常に難しいんですけども、好事例として参考にさせていただきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

どれがよくて自殺者が減っていくかというのは分かんないですけどね。でも何か新しいものを毎年毎年、9月と3月にありますんで、そういったときに皆さんの意見を聞きながら、新しい対策をちょっとずつ試してみるというのも大事だと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

調べると全国に30代から60代の男性の自殺者が、全体の7割もいるということなんですよ。会社員や自営業が多く、生活苦や事業不振など、経済的な問題や物価高騰などの精神的に追い込まれての自殺だということです。これから5月病とか6月病とかね、そういうことを言われます。そういう時期が来ますんで、またそういったときに自殺者を出さないような対策をぜひ取っていただきたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

今ほど議員からおっしゃられたとおりでございますし、そのとおり、私どもも努めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

ありがとうございます。

次は、令和5年が9人、令和6年の数字がまだ出てないんですが、令和6年、分かったら教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

暫定の報告数になりますが、11人ということで少し増加しております。やはり高齢者の自殺というものが増えておりまして、11人中8人が60歳以上の方ということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

頑張ってくれてるから、6人、9人で5人ぐらいになるのかなと思って質問したんですけど、びっくりだね。でも何とか頑張らんとですよ。ぜひお願いします。

次に、災害に向けた対応について質問をいたします。

令和6年7月号の広報いといがわには、忘れない7.11水害と新潟焼山、火山災害から50年が載っていました。新潟焼山は、過去に大きな爆発で溶岩流が日本海まで到達したとも言われていますが、今後、このような爆発があれば、早川筋の人たちが、多くのものを失うことになると思います。爆発から50年が過ぎ、いろいろな対策が取られてきたと思いますが、最近の安全対策はどのようなものがあるのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

まず、消防本部のほうからソフト面といったようなところでお答えをさせていただきます。

まず、新潟焼山につきましては、全国で50あります常時観測火山として、気象庁などによる、関係機関による監視・観測体制を取っております。

また、関係機関、有識者により新潟焼山火山防災協議会を設置いたしまして、火山対策を行いまして、これまでも有事の際の連携をいたしまして、対応いたしております。また協議会におきまして、避難計画の策定、また噴火シナリオを作成いたしまして、市では定期的な火山防災の訓練、あるいは研修等を実施しているといったようなソフト面でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

私のほうからは、ハード面の安全対策ということで、ご説明させていただきます。

土砂災害から下流の人家を守るために、新潟県のほうから焼山川、火打山川で、砂防堰堤の整備のほうを継続して行っている状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

私のほうから、ハード面についてお答えさせていただきます。

林野庁、関東森林管理局、上越森林管理署では、昭和49年の発生以来、治山事業によりまして、土砂流出の防止等に努めておりまして、平成30年からは融雪型火山泥流の対策も進めておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

今ハード面で、長崎課長のほうから砂防堰堤という話があったんですけど、砂防堰堤ももうそろそろ終わりなんですよね。もう工事がある程度終わって、新しい砂防堰堤もそんなにもう作らないんじゃないかなというふうに思うんですけど、古い方の砂防堰堤あたりは、もう完全に満杯になってますよね。堰堤の価値がない状況なんですけど、例えば土砂の撤去とか、そういうものは、今後やっていく予定はあるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

今ほどお話ありましたとおり、焼山川につきましては、新たな堰堤を作る場所というのはなかなかないので、今、県のほうで考えているのは、既存の堰堤を改良といいますか、かさ上げしたりとか、あと背後のたまった土砂等を除去するというので、今後予定しているということでお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

砂防堰堤も土砂の搬出をしておかないと、いざといったときに、わけない乗り越えてきちゃいますよね。だから、少しでもそこで、例えば1秒でも2秒でも遅らせるような対策とすれば、それしかないと思うんですよね。上にかさ上げすれば、またその分、長もちするかと思いますので、その辺もしっかりと要望していただきたいと思いますが、例えば地震計とか、そういう対応というのは

やってないんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

新潟焼山につきましては、地震計ほか観測機器を気象台、また関係機関によりまして、設置させていただいております。

また、平成28年に小規模な噴火があった際に、観測機器を増強させていただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

そういう機械もね、設置してあると思うんですけど、さっき答弁の中でそういうこと言われなかったんで、どうなのかなというふうに思ったんですけど、今から11年前の、まだ記憶に新しい御嶽山の噴火、犠牲者が、行方不明合わせて60人以上出たという戦後最大の噴火だということなんですけど、この噴火も、17日前から、気象庁の地震計は火山性地震の前兆を捉えていたそうなんです。ただ、噴火警戒レベルを1として、噴火しなかったというふうに考えていたようです。

また、長野県でも火口に一番近い山頂付近に地震計を設置してあったそうですが、後で調べたら機能してなかったということも言われています。

糸魚川市としても、やっぱりそういう気象庁とか県が対策してあるものに過信することなく、やはり市独自でも何か避難誘導も大事ですけど、何かそういう対策というのは取る必要があると思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

市としての安全対策といたしましては、噴石から身を守ります退避壕、これにつきましては山頂から約800メートルの泊岩、また山頂から約4キロメートルのカラサクシェルター、登山口になるんですが、そこに退避壕を設置させていただいておると。

また、御嶽山の噴火災害を受けまして、大きな噴石というのも一つの要因でありましたので、すぐに貸出用のヘルメットをその退避壕に設置をさせていただいておるといったようなところなんです。

また、ちょっと県のほうでの取組になるんですが、登山届の義務化ということで、県の条例で規定していただきまして、笹倉温泉のほうに登山ポストを設置いたしまして、入山者を把握しているといったようなところなんです。

先ほど中村議員からありました観測機器の故障云々ということなんですけど、やっぱり一番はこの

平成28年、先ほどの小規模噴火という私お話しさせていただいたんですが、やっぱり地元の皆さんが新潟焼山をよく知っているといったようなところで、異常があればすぐに連絡をいただけるといったようなところで、やはり地元の声というのも非常に大切かというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

いろんな機器が設置してあると思うんですね。

ただ、今年みたいに6メートルとか7メートル、上へ上がったことないんでね、メートル数は分かんないですけど、シャルマンあたりでも相当の積雪があるんで、それ以上の雪が積もってると思うんですね。そうしたときにそういう観測機器が、毎日24時間ちゃんと機能してるのかというのはちょっと心配なんです。それは、市でね、どういうんだというわけにいかないですけど、そういった情報もたまに取ったりはしてるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

観測機器につきましては、故障云々といったようなところは地震計とかお聞きしたことはないんですが、もし何かあれば、当然、気象庁、気象台のほうから連絡をいただける体制となっておりますし、このように景色が悪ければ監視カメラですか、映らないとか、先日もちょっと故障までいかないんですけども、そういったようなことがありまして、すぐに連絡をいただきまして、また別の方法で観測するといったような体制を取っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

御嶽山の噴火の後に、次の年ぐらいだったかな、何か講習会があったら、大学生が相当勉強に来たらしいんですね。

ただ、火山活動に関わる仕事をすると給料は物すごく安くて、なかなかそういう人たちが増えないらしいんですね。ただ、糸魚川市として、自治体の研究者たちと連携しながら、糸魚川市独自のそういう専門家というか、詳しい人たちを育成していく必要もあると思うんです。その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

新潟焼山につきましては、先ほど火山防災協議会の話をした際に有識者、大学の先生だとか、そういった方から必要な知見等をいただいております。今度そういった方々を養成するというようなことになれば、例えば先日、1月ですか、白嶺高校で防災フォーラムがあったんですが、白嶺高校につきましては、ここ数年、新潟焼山について取り上げていただきまして、かなりの知識を持っていただいていると思っておりますし、また、地元の下早川小学校は防災教育も実施しているといったようなところで私も認識しておりますので、そういった方々が山に、山といいますか火山に関心を持っていただいて、将来そうやっていただけるかどうか分かりませんが、そういった知識を高めていただくといったようなことが大事だと思いますし、また、地元の方、焼山愛が強いというようにお話しさせていただいたんですが、そういった方々からも後世にそういった知識を伝えていただければなというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

大事なことですよね。若い人たちから、そういう勉強をしていただくということは大変大事だと思うんですよね。

それで、焼山の火山災害から50年が過ぎたということで、それに関係した小中学校の子供たちですかね、さっき白嶺高校という名前が出たんですけど、小中学校の子供たちにも50年を迎えたということで、新たに焼山火山だけじゃなくても、この地域で発生する災害に対してのそういう教育というか話というのは、学校でしたもんですか、教育長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

お答えいたします。

子供たちの教育活動での位置づけ、取上げというふうな意味合いだと思います。

日常的に防災教育については、各学校でもいろんな場面でもってやっています。去年は特に、今ほど議員さんご指摘のように、新潟焼山噴火50周年ということの節目だったので、昨年11月に市内の3・4年生が一堂に会して、ジオパーク学習、交流会というをやりました。これは毎年やってるんですけども、その中に、午前の部と午後の部とあるんですけども、元ミュージアム、博物館の宮島 宏館長さんからおいでいただいて、焼山についての恵みというふうな視点と、それから火山活動、その怖さというふうな部分についてスポットを当てていただいて、講演会を子供たちに直接していただきました。大変子供たちも担当の職員も、いい学びができたということで、非常に喜んで帰ったそうです。

そして、とりわけまた下早川小学校の6年生が、ジオパーク学習をさらに深掘りしたいというふ

うな意味合いもあって、博物館に直接出かけて行って、学芸員さんから直接、新潟焼山の特徴とか歴史とか、それから噴火のサイクルとか、それから大地のつくりはどうなってるのかという部分について、展示物を通して、直接触れながら学習をしたということで、大変深掘りのあった学習だということで、子供たちは学びの成果を学校に帰って、保護者や先生方と一緒に共有したそうです。そんな取組を昨年させていただきました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

いいですね。小学校、中学校、そして高校、これを継続的に、50年だからということじゃなくてね、継続して続けていくというのが大事だと思うんです。

次の質問に入るんですが、7.11から30年が過ぎましたね。それも一つの節目なので、噴火だけではなくて、こういう災害も糸魚川にあるんだよということも教えていていただきたいというふうに思っています。

今ほど言いましたが7.11から30年が過ぎましたが、私も当時のことはしっかりと覚えています。またその翌年には、蒲原沢の土石流災害で14人が亡くなるという災害も発生してしまいました。その後、姫川筋では、急ピッチで災害復旧工事が進みまして、安全な河川にはなってきたと思うんですけど、最近では姫川だけじゃなくて、市内全ての河川で河床が高くなってきてる。それにもかかわらず、河床掘削は進んでいないというふうに私は思います。

このような状況で、今年の大雪、雪解け、また豪雨等重なると、河川が氾濫することは、これ間違いないというふうに思うんですよね。河床掘削や護岸整備など、市長が先頭になって要望活動をされているということはお聞きしているんですけど、今後、優先順位を、全ての川をやってくれというわけにいかないんで、優先順位をつけて河床掘削を進めていてもらいたいと思うんですけど、市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに糸魚川市にある河川、中小河川全て含めてやはり急流河川でございます。非常に土石流が発生したときには、破壊力のある、非常に大災害になる河川でございますので、河川管理は日頃から、やっぱり重要と捉えております。その中で今ご指摘のように、河床の上がり下がりというのは非常に大きな影響をするわけでございますので、堤防もさることながら、まずは河床の管理というのを大切にしていきたいと思っております。

今現在見ておりますと、姫川が下がっております。また、海川は少し安定いたしておる状況でございますし、早川についても、河床が下がった中において、今床どめみたいな形の中で対応して、護岸の保護に努めておる状況でございますし、一番やっぱり心配は、能生川でございます。能生川

は非常に河床が上がっておる状況が見受けられるわけでございますので、まずは、やはりそういった高く上がったところについては、河床整備をさせていただいて、多少下げたり、そしてまた、護岸に対しての保護をしていかなくちゃいけないんだろうと思っておりますので、積極的にその辺をやはり我々が住んでおるわけでございますので、住んでおる目で、この管理者に要望していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

ありがとうございました。能生川は、もう今週入ってからですかね、河口付近で、河床掘削ちょっとしてるんですね。

ただ、もっと上流のほうは、掘削はするんですけど、この前は土砂を少し持ち出したのかな。ほとんど土砂を持ち出さないで、左岸のほうに貼り付けてある状況なんですよ。それだとやっぱり大雨が降ると、またすぐ河床が上がってしまうね。だから今後、取りあえずそこに置いてあるのか、ずっとそこのほうに、また置きっ放しにするのかというところが、市では情報もらってるんですかね。課長のほうがいいかな。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

今ほど言われました、仮置きしてるかという、ちょっと細かい情報までは、私のほうに入ってきていないんですけども、今後、今ほどお話ありましたとおり、河川掘削ということになりますと、非常に重要といいますか、貴重な生命・財産を守る位置づけでも重要な位置づけかと思っておりますので、河川管理者であります県のほうとタイアップさせていただいて、引き続き要望の推進のほうに当たりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

ぜひまた確認してみてください。上流のほうなら、あれなんですけど、ちょっと河口に近いほうに、左岸に貼り付けてありますので、あれがたまっちゃうと、やっぱり上のほう、前に大雨で火葬場の辺が護岸が壊れたような、あんな状況が起きると思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

次に、能登半島地震から1年が過ぎましたが、テレビで見ててもなかなか復旧工事が進んでいないというふうに思っています。このような大きな災害が起きると、復興に10年ぐらいかかるというようなことですが、糸魚川市では、地震が発生したときの復興計画がどのようになっているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

復興計画ということは、事前の復興計画といったような意味合いかと思いますが、事前の復興計画は非常に大切なことだというふうに、私、認識しておりますが、やっぱりまずは災害発生前の対応、また災害発生時の対応、これについて能登半島地震以降、糸魚川市では力を入れて、さらにその先にはそういったことにもなってくるかと思しますので、まずは、災害時、発災時の対応が重要だというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

そうですね。災害が起きる前にある程度の計画を立てとかなないと、いざというときに困るわけですが、津波避難誘導看板、やっとな、何回か前に私質問して、早急に必要だよと言ったのが、やっとな今度つくのかな。海岸沿いを中心にして、海拔表示板の設置も同時に始まると思うんですけど、一応、海沿いがメインですけど、大体どんなようなところをメインに設置する予定ですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

今現在も地区から要望あったところには、直営ではございますが、作ったものを表示させていただいております。新年度予算に計上させていただいたんですが、まず、言われておりますマリンドリーム能生、あるいはピアパークであったり、大型の観光客が訪れるといったようなことから、大型の避難誘導看板設置を予定しております。また、各地区といいますか、地域におきましては、ごみ集積場等を中心といたしまして、地区の要望をお聞きし、海拔表示を設置するといったようなことで今予定をしているところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

予算見るとね、枚数が出てないんで何枚ぐらい必要なのかというのはちょっと分からないですけど、枚数がもし分かったらちょっと、簡単でいいんですけど。

それから、例えば5メートルとか7メートルとかという表示板も確かにそれは必要だと思うんですけど、取りあえず大きな地震が来たら10メートルまで避難してくれということも言われてますので、例えば10メートル、ここが10メートルなんだと分かるような看板というのも設置する

予定ですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

まず、枚数につきましては、今担当のほうで、どのようなところをつければいいのか、また地区の要望等もお聞きしながら検討している段階ですので、ちょっと枚数についてはお答えはできません。

今ほど言われました1つの目安として10メートル、津波からの避難につきましては、目安を10メートルといったようなところで周知はさせていただいております。避難行動には表示しておくというのは大変有効だと思いますので、今ほど言ったごみ集積所等の海拔表示と併せまして、有効な場所に、むやみやたらにつけてもいいというものでもありませんので、そういったところで検討させていただきたいなというふうに思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

地元だけじゃなくてね、やっぱりさっき言われたように観光客が、知らない人たちの目のつくところにやっぱ設置していただくのが必要なと思います。10メートルというと、例えば小泊地区だと自転車道、あれが10メートルというふうにもう地元の人たちは頭に入ってるんですね。取りあえず自転車道まで避難する。そうすると小泊みたいなのところには、そんなに設置しなくてもいいと思うんですよ。

逆に町うちだと10メートル、どの辺まで行けば10メートルなのかなという、そういう設置方法がいいのかな。だから、ある程度の自転車道みたいな、こういうラインがはっきりしているところには、地元によく周知して、地元の人たちの頭の中に入れてもらう。

ただ、観光客がいますんでね、そういう人たちに分かるようなものは必要だと思うんですが、ぜひそういう設置の仕方も考えていただければなというふうに思いますし、前に、和泉議員から携帯の「スーパー地形」というアプリを教えてくださいました。このアプリ、私も今これ入れてるんですけど、そこへ行って入れると、今ここに立ってると何が何メートル、海拔何メートルというのが出るんですよ。これも海拔表示板と併せて、こういうアプリがありますよというのを周知していく必要もあると思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

いいアプリといますか、そういったものがあれば、どんどん検討いたしまして、ホームページ

等に載せる。あるいはダウンロードしていただくといったようなことで対応したいと思いますが、当市におきましては、国土地理院が提供しております標高が分かる地図ですかね、これをホームページにリンクさせていただきまして掲載、昨年6月にさせていただいておりますので、もしホームページ見る機会がありましたら、そこで見ていただければというふうに思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

ホームページよりはね、携帯持てれば、自分の行ってるところでは何メートルなんだというのが分かるんで、やっぱりスーパー地形というのが、いいか悪いかは別として、そんなに狂いが無いみたいなんで、そういうものも市民の皆さんに、何か広報いといがわとかそういうものを使いながら周知していただければなというふうに思います。

糸魚川市には、上越・糸魚川沖断層、F41と言われる海域断層があります。県では、地震被害想定を公表を先日しました、前にしましたよね。そうすると5分で津波がこの辺は到達して、上越・糸魚川地域では、津波により300人以上の死者が出ると。また、断層の一部が新潟、糸魚川の陸地にもかかっていることから、震度7の揺れが発生すると、上越3市の死者は、最大で3,045人、大半の建物が倒壊するというふうに言われております。火災も冬場だと、当然火災、400棟ぐらいが焼失するのではないかなと言われているんですが、これは最悪のシミュレーションを考えた対策を糸魚川市としても考える必要があると思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

まずは災害を知り、最悪を想定するといったようなことは大事になるかと思います。今ほど議員おっしゃられたとおり、県の被害想定では、甚大な被害となりまして、さらに職員も被災する可能性がありますことから、市だけでの対応・対策は不可能とされておりますので、災害規模が大きくなればなるほど、自助共助による活動等が重要になってくるといったようなところは、これまでも話をさせていただいたところです。

過去の大きな震災を基に、国の防災基本計画が修正されまして、県や市の地域防災計画に反映し、これらの計画に基づきまして関係機関、また、各自治体の支援を受けながら対応していくといったようなことになろうかと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

過度にね、あおるというのも非常に危険なんで、その辺は慎重にしていきたいと思いますが、国交省では、２０２３年から津波地域を中心に事前復興計画を推進してきた。

ただ、策定済みが僅か２％、検討中が２２％、検討してないが７５％と、ほとんど進んでいないという状況らしいんですが、糸魚川市では、この事前復興計画の検討をしているのかどうか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

先ほども質問で答弁、事前復興計画は策定していないといったようなところで、現在策定をしておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○１４番（中村 実君）

何でしてないんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

先ほども答弁させていただいたとおり、事前復興計画というものは必要であると。これは、糸魚川市の駅北大火でもそのような議論がありまして、必要だということは認識しております。

ただ、答弁繰り返しになりますが、能登半島地震を受けまして、地震発生初期対応、これについて検証・対策を講じている段階であるといったようなところで、当然、同時進行していければいいんですが、まずそちらのほうに力を入れたいといったようなところで、今のところ計画は策定しておりませんが、その後は、やはり検討する必要があるというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

五十嵐産業部長。〔産業部長 五十嵐博文君登壇〕

○産業部長（五十嵐博文君）

若干補足をさせていただきます。

駅北大火を受けまして、国のほうからも事前復興ということを提示されまして、糸魚川市のほうでもいろいろ大火の終わりがけの頃に、検討し始めたときがございました。ただ、そのときには、いろいろ大火でノウハウとか伝承とかが蓄積されていたりしたので、そういうのをしっかり記録に

取って、次に活用できるんじゃないかというプロセスを踏んだかと思います。

ただ、1月1日の地震は、大火とか氾濫と違って、場所も面的に広いということになると、事例では、何かあったときの計画をつくる。もしくは何かあったときのために、もうそれに向かって進むとか、それくらいのをやっている自治体もございますので、今度は地震のときにどうするかという観点では、もう一度、事前復興の計画の立案の必要性というのは高まっているんだろうと思いますので、今後の課題として市役所のほうでは捉えてまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

事前復興というのは、災害が発生する前に、発生したらどうしようかという計画を立てるんですよね。

高知県の黒潮町というところは、地震が起きると34メートルを超える津波が来るというふうに言われてるらしいんですよ。それで、そこでは避難タワーを7か所、それから町役場や公営住宅、それをもう既に高台へ引っ越してるんですよ。そこまで危機感を持って動いてる。だから、糸魚川市も、今すぐどうかしれとかということじゃないんですけど、やっぱりある程度の計画を持って、そういうことをしていく必要があるんじゃないですかと、今のうちに。そういうこと言ってるんで、あんまり地震に対しての危機感がないのかなというふうに思うんですけど、やはりこの県境からずっとこの辺が陸地に断層がかかっているんですよ。震度7ぐらいの地震が来るというふうに言われてるんだから、やっぱり能登と同じぐらいの地震が来たときに、災害が起きる前にある程度の対策をしましょうというのが、これ事前復興。これは国土交通省が進めてるやつです。これにやっぱり取り組んでいく必要があると思うんですけど、どうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

五十嵐産業部長。〔産業部長 五十嵐博文君登壇〕

○産業部長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

先ほどの私の答弁が、危機感がないというふうに伝わったとしたら大変申し訳ございません。地震の場合には、海岸沿いを津波が襲う、東西方向に広がる後、面的にも、原因はもう地面ですので、もう至るところにそういう被害が起きるという意味では、危機感というのは当然、今までの水害とかよりは遥かに高いものだという位置づけでおります。それに向けて、ほかの事例をどこまで参考にするかというのもございますが、もし何かあったときには、こういう対応しなきゃいけないということは、大火とは違った捉え方でやっていく必要があるという意味で、先ほどの答弁をいたしました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

先ほども言いましたけど、新潟県では、津波によって300人以上の死者が想定されているというふうに言われてるんですよ。これは糸魚川だけじゃないですよ。上越とか向こうも併せてだと思っ
うんですけど。そうすると、糸魚川でも相当な津波で死者が出るというふうに思うんですよ。や
っぱり取りあえず、津波に特化した、津波というか地震に特化した、耐震もそうですよね。皆併せ
た中で、そういう対策を今後も取っていかないといけないかなというふうに思うんですけど、これ
は、行政だけでやるというのもね、大変だと思うんですよ。地域でできることはやっぱり地域で計
画を立てていくと。だから公民館体制で、ここの地域は、こういう地域なんで、こういうものをも
う今のうちにやっというたらいいんじゃないのかという、そういうのを地域に任せて、そういうこと
をお願いしていくと。それを集約して、市で計画していくというふうなことが大事だと思うん
ですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

今ほど議員おっしゃられたとおり、地域の方にそういったものを、それで行政がまとめ上げる。
これが、まさしく自助、共助、公助、3助の連携になるかと思いますので、ご提言いただいたとこ
ろを踏まえまして、今後、地区と協議する場があれば、協議していきたいというふうに考えており
ます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村議員。

○14番（中村 実君）

ぜひ地域とタイアップして、地域の安全対策をよろしく願いいたします。

以上で終わります。

○議長（保坂 悟君）

以上で、中村議員の質問が終わりました。

本日は、これにてとどめ、延会といたします。

大変お疲れさまでした。

〈午後4時03分 延会〉